

# コープの産直事業

## ～顔の見えるコープの産直～

### コープは組合員と生産者のかかわりを大切に、互いに信頼し努力し商品をお届けし続けます

コープは、生産から食卓までつながる取り組みを進めることで食卓の安心を守ってきました。1972年に始まった産直の取り組みは、今では農産物だけでなく水産・畜産品や米・たまごなどにも広がっています。

産地では組合員、生産者、コープの職員がその取り組みについて意見交換をしたり、商品仕様どおりの生産状況であるかなども、ともに確認し合います。

また生産者は店舗での取り組みや組合員の集まりに参加するなど交流を深めながら、産直の商品を育てています。さまざまな取り組みや交流から得られた情報は、商品活動や業務活動を通じて組合員に伝え、「出どころ確か」な商品として安心を届けています。

■コープは商品活動の歴史を通じて、組合員の商品に対する要望を「コープで扱う商品5つの願い」としてまとめています。コープの産直事業は「コープで扱う商品5つの願い」を具体化する取り組みです。

- ①より安全 …………… 組合員の健康を支える、より安全で信頼できる品質
- ②より安く …………… 暮らしを守り、よりよい暮らしのための価格の安さ
- ③環境に配慮 …………… 持続的に発展可能な社会のために、環境に配慮した商品
- ④正しい情報、適正表示 …… 商品選択のための適切な情報の提供・適正表示と消費者教育
- ⑤組合員参加 …………… 組合員の商品への6つのかかわり（利用する／意見を出す／学習する／普及する／開発・改善する／評価する）を広げます

## コープの取り組み

2009年からフェアトレードバナナの取り組みを開始し、2013年で5年目を迎えました。

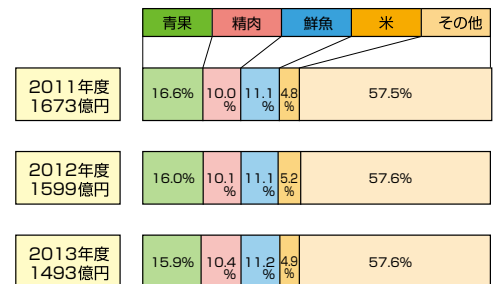
バナナ1袋につき約4円を還元金としてコロンビアの生産者に支援します。還元金は生産者の団体が受け取り、生活環境の改善などに使われています。

ユーコープでは、2009～2013年度までの5年間でフェアトレードバナナを264万2489袋ご利用いただき、コロンビアのバナナ農園従業員へ約1057万円を還元することができました。

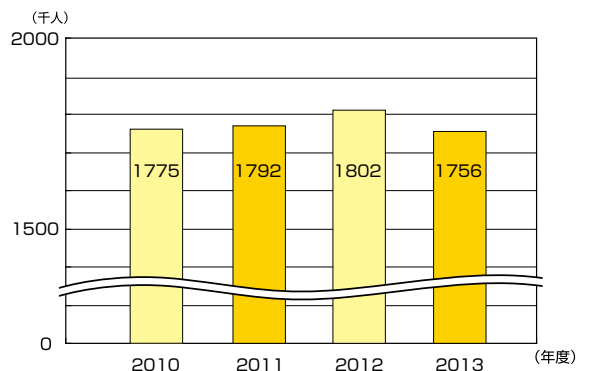
また、2009年より国産飼料による国内自給力強化への貢献と、休耕田の有効活用による水田の保全を目的として、産地指定の茶美豚とはぐくみ鶏の一部、および味菜卵（あじさいらん）の全ての親鶏に、飼料用米を給餌する取り組みを継続しています。

給餌開始から5年目の2013年も、茶美豚・飼料用米給餌の取り組み産地である花巻農業協同組合（略称：JAいわて花巻）で飼料用米の取り組みに関する総括会を実施し、稲作や畜産の現状や、2013年度飼料用米の取り組みの振り返りを行いました。

### ●食品供給高にしめる部門割合



### ●ユーコープ組合員数の推移



2013年10月、ユーコープ富具伸一理事長(右)は駐日コロンビア大使のパトリシア・カルデナス氏(左)より「カルタ・デアグラデシメント」(感謝状)をいただきました。



JAいわて花巻にて、総括会の様子

## コープの商品に関わる取り組みの歴史

組合員はコープに加入するとき、コープへの期待を持って加入します。その期待（特にコープで扱う商品への期待）も時代とともに変化してきました。コープは今までもそしてこれからも、組合員の思いを大切にしながら社会の変化の中で産地・生産者とともに歩み続けています。

コープの産直事業		コープの産直事業	
1955	牛乳値上げに反対し 10 円牛乳運動展開	1991	無農薬フィリピンミンダナオバナナ供給開始 「農業使用・栽培法指標（案）」に基づいた「クローパーマーク」のついたかぼちゃ・にんじん、カリフォルニア産ブロッコリーの開発 残留農薬自主基準（案）の運用開始
1966	はじめて生協の指定規格のタラコ開発：タル系色素→天然色素に変更	1993	グリーン・プログラム運用開始 グリーンボックス供給開始
1967	しずおかで原乳値上げ発表をうけ 15 円牛乳運動	1995	産地指定ブレンド米 ふれあい米開始 鹿児島産うなぎ、水産部門の第 1 号グリーン・プログラム ブラックタイガーの開発 牛乳の製造日併記要請 産地指定飛騨和牛の取り扱い開始 アメリカ産のびのびポークの開始
1969	美味しい米を安く、米の共同購入開始	1996	オーストラリア産地指定リベリナビーフの取り扱い開始 鹿児島県産黒豚の開始 奥州赤鶏の開始 組合員開発チームにより、はぐくみ鶏開発
1970	COOP3.2 牛乳発売	1997	水産の吉田焼津産うなぎの取り扱い開始 水産のグリーン・プログラム改訂 茶美豚開発
1972	しずおかで志太園芸グループといちご、翌 73 年完熟トマト取り扱いを開始	2001	「コープの産直」運用開始
1973	中村果実の桃・ぶどうの取り扱い開始 銘柄米 白雪米の取り扱い開始	2002	コープ牛乳品質不良事故発生
1974	ノーワックスみかんの取り扱い開始 鹿児島経済連と産直豚の取り扱い開始 国産レモンの開発 牛乳の品質検査開始	2005	はぐくみ鶏加工品産地偽装事件発生
1975	無着色たらこの開発 宮城松島産かきの取り扱い開始 完熟トマトの開発・無着色ぶきの取り扱い開始	2006	グリーン・プログラム表示改訂
1976	佐賀経済連と鶏肉の事業提携スタート 熊本果実連と提携しジュース、ドリンク開発 開拓豚の取り扱い開始	2008	グリーン・プログラム改訂 食と食料政策策定 安全・安心の信頼回復アクションプログラム策定と実践
1977	日付表示した卵を供給開始	2009	フェアトレードバナナの発売 茶美豚・はぐくみ鶏・味菜卵の親鶏へ給餌する飼料用米生産と給餌まる 産地確認会開始
1978	岩手より牛肉の直送開始 OPP・TBZ を使用しないレモンの取り扱い開始	2010	JA ふうの、ながさき南部生産組合と「まるごと産直」開始
1979	無漂白れんこんの取り扱い開始	2011	日本の農業を応援し、ごはんを真ん中にしたバランスのよい食生活を提案する取り組み「おいしいごはんプロジェクト」開始
1982	岩手県農協と牛の産地提携及び同県内で豚肉、鶏肉の取り扱い開始 台湾よりうなぎの輸入開始 産地・工場見学広がる（農協へは 14 回 1690 人）	2012	JA いわて花巻と「まるごと産直」開始
1983	広島産生カキ取り扱い開始 コープの「卵の 4 つの取り扱い基準」作成	2013	コープの産地指定ハーフ三元豚の取り扱い開始（アメリカ産のびのびポークから変更）
1984	産直愛媛豚の開発 しずおかで国産レモンの植樹祭を実施		
1985	養殖わかめの開発（三浦市金田湾漁協と提携） タイ産ブラックタイガー共同仕入		
1987	残留農薬の自主検査開始 鹿児島県開拓農協と第 1 回目の産地交流実施		
1989	卵ふれあいパック開発 無・低農薬栽培について実験圃場の設置		
1990	ポストハーベスト農薬不使用のバナナ供給開始 オーグーメダルビーフの開発 冷凍野菜直輸入の取り扱い開始 生協と農協の出資でグリーンピア設立		

\* 1946 年「コープかながわ」の前身のひとつ「川崎生協」が誕生、1949 年「コープしずおか」の前身のひとつ「静岡民主生活協同組合」が設立、1973 年「市民生協やまなし」の前身である「山梨中央市民生活協同組合」が誕生。1990 年「ユーコープ事業連合」が発足。

\* 2013 年 3 月 21 日コープかながわ・コープしずおか・市民生協やまなしは組織合同し「生活協同組合ユーコープ」が発足。